

ウルキオラ再び

綺羅璃

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

ウルキオラが一護との戦いで消滅した続きです

第1話

目次

1

第1話

俺は消えてゆく・・・心という物に早く気付きたかったな・・・

*:.:.。 ○○☆ .:.:. *:.:.。 ○○☆*:.:. .:.:. *:.:.。 ○○☆ .:.:. *:.:.。
 ○○☆ .:.;. *:.:.。 ○

私は、如月星月（きさらぎせな）

目の前から過ぎ去る時間―死にたいとは思わない、だが生きたいとも思わない・・・
 ただ胸を痛める日々

私は、この世界に生まれて正しかったのだろうか。。。

私には、この世界で幼いころから色々な物を見て来た。

大きな化け物、喰われる人間、化け物になる人間、黒い服を着た人間・・・
 全て無視し続けた・・・

私は、ひたすら無視をした、他のゴミの笑い声、いつまで経っても救われない・・・

「なんだね？あの子は」

「餓鬼の割にはいい霊圧しているじゃないかっ」

「フン、隊長格の霊圧に反応したってことだね」

「あの霊圧は、隊長格以上、ぜひ、研究の材料にしたい所だよ」

「あーなんだ？俺が先にあの餓鬼と戦う」

「君たち、そんな事を言っている場合じゃないぞ。」

「あの子はあの霊圧にやられている、このままだと危険だ！」

「・・・我々の仕事は魂魄を守ること・・・それはあの餓鬼を守ることと同義だ。」

「兄はどうすればあの餓鬼を守れると思うか？」

「そうだね。あの子を尸魂界へ連れて行くことぐらいしか・・・」

残念ながら現世では何もできない。」

「・・・それにあの子をほうって行くことはやっぱりできないしね」

「尸魂界へ連絡を取るよ」

近づいて来る・・・

今までと違うこの感じ・・・

私はどうもー見ないふりをするしか・・・

「貴様のこの霊圧は何だ？」

「……………」

「人間とはいえ、この靈厚で我らが見えぬ筈ない」

「……………」

「何も答えぬ気が……………」——つ何だ?」

グオオオオオオオオオオオ

大きな白い物で体が覆われていく…

何この力…

何この感じ…

「……………死神だと」

「朽木隊長、更木隊長、涅隊長、穿界門の用意は出来た」

「この子を尸魂界へ連れて行く許可もでた、さあ我々は行くとするか!」

……………えっ

ちよつと今…

「貴様を今から尸魂界へ連れて行く、来い。」

「……………」

ーガシ

(何よっ) バンバン

私はひたすら暴れたでも抜けだせない、強い力っ!!

「縛道の六十一六杖光牢。」

何この6つの光はー！ー！ー！動けない???

!!!???

・・・私の格好もあの人達と同じ!!

「大人しく来れば良いだけのこと」

「・・・朽木隊長やり過ぎでは・・・」

「面倒だ。」

ソウルソサエティに連れていくとか話した白髪の人が近づく・・・

「そんなに嫌がらないでほしいな、君を思っっちゃっているんだ」

「前に、一護君が人間から死神になってな、」

「・・・分かってくれるかな?」

「面白いぜえ餓鬼!!いい霊厚だっ!しかも死神になるなんてなっ」

「眠っていた死神の力が急激に霊厚が上昇することで動かされたんだよ」

「・・・ソウルソサエティに行く。」